

『祈りの経営』 (日経リーダー1月号より抜粋)

幸之助は、何が迷信で何が正しい信仰になるのかについて言及している。前提として認識しておきたい重要な点は「宇宙根源の力によって繁栄、平和、幸福に必要なものは、既に用意されている」ということ。「既にあるもの」をうまく活用すればいいだけの話で、何かにすがって与えてもらう必要はないというものだ。幸之助いわく、「与えられていない」と思ってしまふ思考が迷信にはまり込む1つの要因だという。つまり、

「天地の恵みは既に限りなく与えられている」という認識が迷信を避けることにつながる。幸之助の信仰のベースには、

宇宙に存在する一切のものは常に生成し、絶えず発展しているという「生成発展」の考え方がある。生成発展こそが宇宙の本質であり、自然の理法だと訴えている。これは厳しいビジネス界で生き抜いていく必要がある経営者にとって必須の考え方だ。PHP理念経営研究センター代表の渡邊祐介氏は、「必ず発展するという前提に立てば、苦境に陥っても『行き詰まる』という考えに陥らない。行き詰まるというのは、自然の理法を忘れていただけであり、素直な心で自己観照(自分で自分を、あたかも他人に接するような態度で外から冷静に観察すること)すれば、現実を踏まえ、発展のために『適応』するだけ、と考えられる」と語る。幸之助の言葉に「好況よし、不況さらによし」というものがある。不景気の時は、自社の経営の欠陥がよく分かるため、改善する好機と捉える。こうした視点は、生成発展の考えをベースにした幸之助らしい見方だといえる。コロナ禍ではどうしても不安が先立つが、生成発展の視点で考え、ウィズコロナ、アフターコロナに適応する準備を着々と進める事が次につながる唯一の道であることが見えてくる。

私達は今、コロナの問題によって精神的にも人生の大転換の時を過ごしていると思います。これから3年後どのような時代が来るかを楽しみにして、全力を尽くし、わくわくして未来に前進して行きましょう。

山下久人



自ら建立した「根源社」の前で手を合わせる松下幸之助

【新年の抱負】 「明けましておめでとうございます」



★代表取締役会長 山下 久人

雪国の人は、雪と闘うととても辛い事になる。雪と友達になると、色々な楽しみ、雪まつりやかまくら、スキーと素晴らしくなり雪が仲間となります。コロナでも考え方を少し変えて、乗り越えましょう！

★取締役社長 山下 信之

今年は昨年から続くコロナの影響で、働き方や生活が大きく変わってしまった。現状に対応し、どうしたらずっと残る企業になるのかを考えて、すぐに行動することを念頭に置いて、仕事があることに感謝し、お客様の喜びを我が喜びにして行きます。

★工事部部長 吉岡 誠

昨年からの新型コロナウイルスで社会生活も変化しました。マスクももちろんですが、飛沫感染を防ぐには、アクリル板やビニールシートを併用した換気システムが有効です。きれいな所の外気を取り入れ(吸気)風の流れをつくるため排気する(強制)。病院等ではゾーニング(区域分け)を行い、換気を行っています。便所室等が一番負圧が高くなっています。レストラン等では、各テーブル事に、仕切りと吸気と排気が有効です。変化する時代にいつも対応して行きます。

★管理部部長 橋 千代子

コロナ禍の中で迎えた新年の始まり。日々のニュースで全国のコロナ感染者の増加が報道され、恐ろしくなります。今年とはとにかく健康であること！皆様におかれましても、くれぐれも感染防止の基本であるマスク、手洗い、密にならないを守り、日々元気に気持ちを明るくお過ごし下さい。今年もよろしくお祈りします。

★総務部部長 奥村 恵美

昨年は思いがけない大変な年になりました。コロナについて手探りの中、感染対策を話し合ったり実行してきましたが、今年はいよいよ付き合わなければならないようです。そんな中でも明るい心を持ち続け、気持ちよく仕事ができる環境作りに努めたいと思います。よろしくお祈りします。

★事業部特別清掃課課長 山下 寿一

自分自身勉強し、現場のレベルアップを目指し、お客様の様々な要望にお応えできるよう、チーム一丸となって頑張ります。今年もよろしくお祈りします。

★未来事業一課課長 鈴木 達也

「今年は新しい事にチャレンジする1年にする」と目標を立てました。皆さんと、共に成長できるように頑張りますので、よろしくお祈りします。

★未来事業二課課長代理 清水 一弥

昨年は大変な年になり、改めて健康の大切さがわかる一年でした。働くにも健康第一、安全第一で、今年も油断せぬよう皆で頑張ります。宜しくお祈り致します。



